

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和6年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評 価
2024-2	平面交差部の安全性と円滑性を向上させる反転交差点についての技術研究開発	横浜国立大学大学院 教授 田中 伸治	B
< 研究の概要 > 安全性と円滑性を向上させる新しい平面交差形式として反転交差点を提案し、その性能および効果を明らかにするとともに、導入の課題となる用地制約や社会的受容性についても評価を行い、実運用を見据えた導入指針を取りまとめる。 < 中間評価結果 > - 研究計画に沿って順調に進められているが、今後実施する受容性評価の研究では運転者だけでなく歩行者や自転車利用者への影響についての検討、合意形成プロセスに関する調査なども含めて実施することが望ましい。よって、指摘事項に留意しながら現行のとおりに推進することが妥当であると評価する。 < 今後の研究計画・方法への指摘事項等 > - 利用者の受容性、社会への影響について、運転者だけでなく歩行者や自転車利用者への影響についても検討いただきたい。また、ヒアリング等の際に社会的受容性や合意形成のプロセスについても配慮された点など調査することを検討いただきたい。 - DS 実験においてカーナビの有無が走行方向の認知に及ぼす影響および同方向に走行中の車両や対向車線を走行する車両の有無や車両数の影響を考慮した評価も検討されたい。 - 諸外国での導入事例や整備効果を単純に輸入するのではなく、国内の交通法規や道路利用時の慣習、従来形式との比較検討時の着眼点、行政内外での合意形成ステップも踏まえ、国内道路管理者が無理なく活用できる導入指針を構築されるよう留意いただきたい。			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第53回新道路技術会議において審議したものである。